

令和5年度 事業計画

1 基本方針

日本は、少子化による人口減少が進む一方で高齢者人口が増加し、高齢化率 28.9%という超高齢社会に突入していますが、寄居町にあっては更に顕著で、人口問題研究所では、寄居町の人口は2025年には30,175人、その後も年々減少し、20年後の2045年には22,313人、40年後の2065年には13,272人にまで減少すると推計しています。

また、15歳から64歳までの生産年齢人口も年々減少し、2065年には42.1%にまで落ち込み、逆に、65歳以上の高齢者が50.9%に達するとしています。

40年後には、寄居町の人口の約半数が65歳以上という超・超高齢化社会が到来し、高齢者による自主組織であるシルバー人材センターの果たす役割は、益々大きくなるものと考えられます。

寄居町シルバー人材センターはこれまで、公益社団法人としての組織強化や就業の拡大、安全・適正就業に鋭意努めてまいりました。

今後も、働く意欲のある高齢者が、地域で必要とされ、将来にわたり元気に活躍し続けられる「生涯現役社会」の形成に向け、次の事業計画を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

2 事業計画

(1) 会員の拡大

会員意識調査におけるセンターの認知は、会員や知人からの口コミが最も多く、次いで町の広報誌となっていることから、会員による入会促進キャンペーンや「広報よりい」への定期的な記事掲載、ホームページの充実により会員の拡大に努めます。

また、「シルバーだより」やリーフレット等を全戸に配布するほか、会員の交流や意見交換の場の提供についても検討してまいります。

さらに、女性に適した就業先の開拓や情報提供に積極的に取り組み、女性会員の確保にも努めます。

(2) 就業機会の確保

企業からの需要は、今後も多く見込まれることから、積極的に企業訪問等を行い、その掘り起こしに努めます。

また、一般家庭に対しては、リーフレット等の配布により受注拡大を図るほか、仕事の品質や信頼を基にリピート率のアップにつなげてまいります。

なお、就業機会の拡大を目的とした「就業機会創出員」を配置し、新規の受注と継続受注の拡大に努めます。

(3)安全・適正就業の推進

会員意識調査では、90%を超える会員が、安全就業を意識しているという高い調査結果となりました。今後も、安全標語やヒヤリハット体験談の募集、事故事例の公開など、様々な機会を捉え、会員の安全就業に対する意識の高揚を図ります。

また、安全・適正就業委員会による就業現場巡視を継続実施し、安全就業に対する助言・指導を行うとともに、その結果を会員に周知してまいります。

なお、会員自身の身を守るヘルメットや保護メガネ、ハーネスなどの安全装備の確実な装着を徹底するとともに、飛び石を防ぐ防護ネットの使用など、第三者に対する安全対策の徹底に努めます。

(4)研修の充実

チェーンソーや刈払機等の操作研修会へ引き続き参加するほか、植木剪定や障子等の張り替え、清掃等の実務講習会の開催に努めます。

また、作業の安全や熱中症予防対策等の研修会、自身の健康管理講座等、様々な機会を捉え実施するとともに、交通事故を防止するため、交通安全講習会を引き続き行っていきます。

(5)センター運営の強化

事務事業を効率的に進めるため、入出金業務や会員への連絡、各種の情報提供などのデジタル化を検討するとともに、国や県が開催する研修等に職員を積極的に参加させ、職員資質の向上を図ります。

また、インボイス制度の導入にともなう消費税負担増については、事務費の段階的な引き上げと経常的経費の削減により対応し、安定した財政基盤を確立してまいります。さらに、「会員意識調査」や「お客様満足度調査」も定期的実施し、会員の意識や状況、発注者のニーズ把握に努めてまいります。